

川越市立美術館 令和4年度事業計画

(令和4年度当初予算の成立を条件とします)

■展示事業について

令和4年12月1日は、川越市市制施行100周年及び当館開館20周年の記念日にあたると。そのため、令和4年度に開催する特別展2本については「市制施行100周年・開館20周年記念」の冠を付けて行う。

夏季特別展「相原求一郎展アンコール」は、令和2年度冬季特別展として準備しながら、新型コロナウイルスまん延のため、会期すべてが臨時休館と重なり公開できずに終了した展覧会である。コロナ下でも開催できるよう収蔵品のみで企画した本展だが、記念すべき年に開催がずれこんだのには、不思議な力を感じる。川越市名誉市民でもあり、川越市を代表する洋画家・相原求一郎の回顧展である。

秋季特別展「小茂田青樹展」は、数年前から記念展として企画を温めていたものである。小茂田青樹の回顧展は当館開館1周年記念として開催した経緯があるが、改めて川越との関係に注目し、青樹の代表作を一堂に集める形で開催するもの。

常設展及びタッチアートコーナーは、例年通り一年を4期に分けて行う予定。

■教育普及について

令和4年度の事業予定は以下のとおり。

集まって、え・み～る（常設展ギャラリートーク）	1期につき前後期展示ごとに行う （年間8回）
ジュニア アートスクエア（小学生対象ワークショップ）	毎月1回
学校連携事業「4校美術部展」	5/3-5/8
ワークショップ「ミニ灯笼を作ろう」 （博物館連携事業）	8月
学校連携事業「川越市立中学校美術部展」	8/16-21（予定）
学校連携事業「ミュージアム×スクール」 （市内学校への作家を含めた協力）	予定・安部大雅氏（彫刻家）
川越市小・中学校児童生徒県特選受賞作品展	2月

金沢健一展（展示＋ワークショップ＋パフォーマンス）	3月
実技講座	実施時期未定
Kart サポート・スタッフ	通年実施
《協力事業》川越市立小学校6年生バス見学	実施（春季及び秋季）

■管理運営

市民ギャラリー、創作室の貸室事業を行う。その他、施設管理を行う。
令和4年度で特筆するものは以下のとおり。

初雁公園整備に伴う対応

担当課によると、来館者用駐車場が令和4年度上半期をめどに全面舗装のため閉鎖の見通し。その対応として、美術館北側に駐車場を借り、一時的に来館者用駐車場として使用する。なお、整地後の駐車場は敷地が狭くなり、駐車台数も減る予定。

■今後の課題について

前回会議で課題として意見のあった件、また、事務局から提出した件について以下のとおり。

予算の縮小により、当面、特別展を年間2本とすることについて

市全体の財政難という現状から、当面は年間2本の開催と決め、展示計画を組みなおした。令和4年度については、市制施行100周年・開館20周年の記念の年であり、前々から企画していた「小茂田青樹展」はどうしてもやりたい展示であったが、市制施行100周年事業に位置付けられたことで、当初イメージしていた規模の展覧会として開催できる見通しとなり、安堵した。今後、歳入確保とあわせ考えていく所存。

人員減のため、教育普及活動を縮小することについて

現段階ではこれまで実施してきた事業を縮小してなんとか行っている状況。令和3年度の1年間やってみて、事業の準備実施の省力化（具体的にはマニュアル化）をできないか検討している段階。準備実施にそれほど人手をかけずできるようになれば、実施回数も増やすことができると考える。ただし、教員職でないと難しい事業もあり、すべ

てがこの方法でできるというわけではない。

美術館の存在意義と責任を自覚し、美術のすばらしさを伝える機会をつくることについて

「新しい生活様式」の浸透により、美術館もネット上での活動が広がっている。当館でも独自ツイッターや動画投稿などに着手し始めた、という段階である。当館の場合、ネット上のアイテムで完結する形ではなく、あくまで興味を引き出し、最終的には来館していただき、実作品に触れていただきたと考えている。まだまだ拙いアイテムではあるが、まずは公開することにより、市民の反応を確かめてみたい。

観光客を取り込むための創意工夫について

複数の委員からのご指摘であったが、対観光客については未だ着手していない。美術館と接する初雁公園の整備が市制施行 100 周年事業として進んでおり、令和 4 年度中には完成する見込みである。その時に観光客の流れがどう変わるのか、注視していきたい。

老朽化した設備の修繕計画について

令和 4 年度に開館 20 年となる当館、定期点検の度に様々な不具合が指摘される。部品交換というより機器更新の時期となっている。現在はある日突然故障することに対して「突発修繕」を繰り返しているが、そろそろ計画的に「予防修繕」をする必要があり、とはいえ当館には設備担当の技師がいないため、市のしかるべき担当課に相談しないと進まない。また、修繕の規模によっては臨時休館を伴う必要があるため、展示計画にも影響がある。

準備室時代から続く美術館だより（年 2 回発行）をやめ、美術館独自ツイッター及びフェイスブックを開設する

美術館独自ツイッター及びフェイスブックについては、コロナ下でネット検索をする人が増えたせいか、こちらの発信した情報を得て来館されているケースも増えてきていると感じる。ただし、読み物としての「美術館だより」に代わるものかといえば、そうではなく、今後、当館ホームページ上に相当のコーナーを設けることなど、検討したい。

アンケートの再開

令和 2 年度は中止していたアンケートを、令和 3 年度に再開したものの、これまでの「手渡し式」と比べて格段に回収率が低くなっている。その点で、「意見」としては読み取れるものの、母数の少なさによる「統計の正確さ」という点では劣る内容となっている。コロナ下で今後どのような改善策がとれるのか、検討する必要がある。